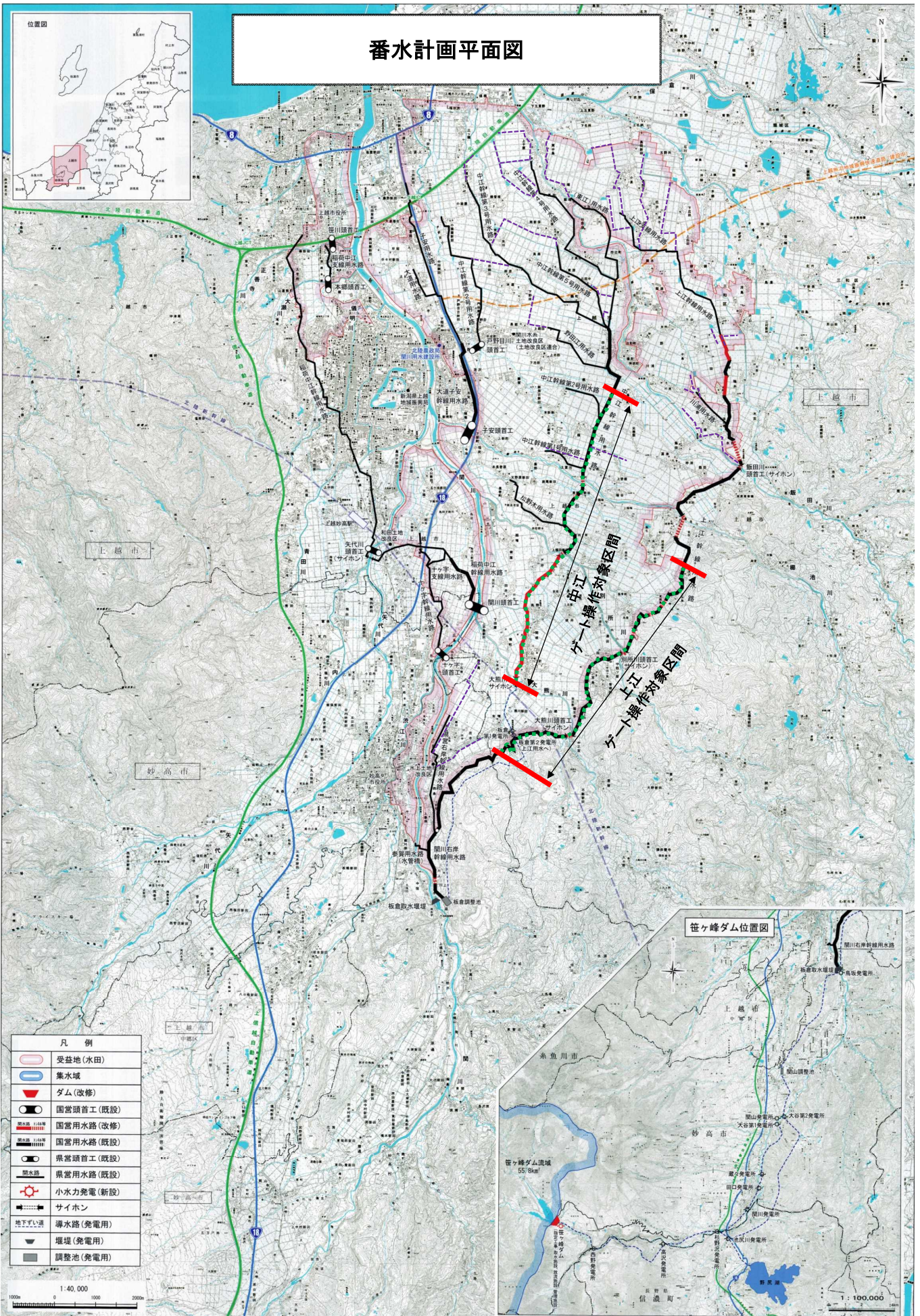


番水計画平面図



農業用水情報 No. 3

発行：関川水系土地改良区
業務課

TEL：025-522-5723

発行日：令和5年8月9日

節水にご協力を！

現在、連日の猛暑により、水源である笹ヶ峰ダム・野尻湖から最大限のかんがい放流を実施し、各幹線用水路は満量にて通水しているところです。

コシヒカリを中心とした中生品種の出穂期が最盛期を迎え、一斉に水掛したい気持ちはわかりますが、限られた用水を管内全域に公平な配水をするためには、「互譲の精神」のもとに、お互いに相手に譲り合う気持ちを大切に用水の利用をしていただき、節水へのご協力をお願いいたします。

なお、下流部において用水不足が発生したため、7月29日より上江幹線用水路においては、番水（上下流2日毎輪番制）に移行していますが、今後の配水状況によっては、中江幹線用水路も即時番水を実施します。放流調整の都合上、幹線用水路は主に夜間において水位低下が生じることがありますので、ご了承ください。

■水源地の貯水状況（8月9日現在）

水源地	貯水量	貯水率
笹ヶ峰ダム	499 万m ³	54%
野尻湖	610 万m ³	62%



笹ヶ峰ダムの状況（8月9日撮影）

組合員の皆様へのごお願い

○ほ場への給水は、かけ流しを絶対しないこと。

○給水栓の水の出が悪いほ場については、水の出の良いラインの給水栓を閉め、水の出の悪いほ場を優先的に水掛すること。

※1. 揚水機場受益の一部地域において、ほ場の湛水が終了しているにもかかわらず、上流部の出の良い給水栓を閉めないことで、下流域の水の出の悪いほ場では常時水が掛からず、水稻が枯れる被害が報告されています。

※2. 町内会長・農家組合長・揚水機場運営委員長（運転員）におかれましては、ほ場の巡視を強化し、湛水の終了しているほ場において、取水していたり、かけ流しを見つけた場合は、給水栓を閉める対応をお願いいたします。

○幹線用水路の分水ゲートを無断で操作しないこと。

○畦畔の漏水を確認した場合、漏水対策を強化してください。

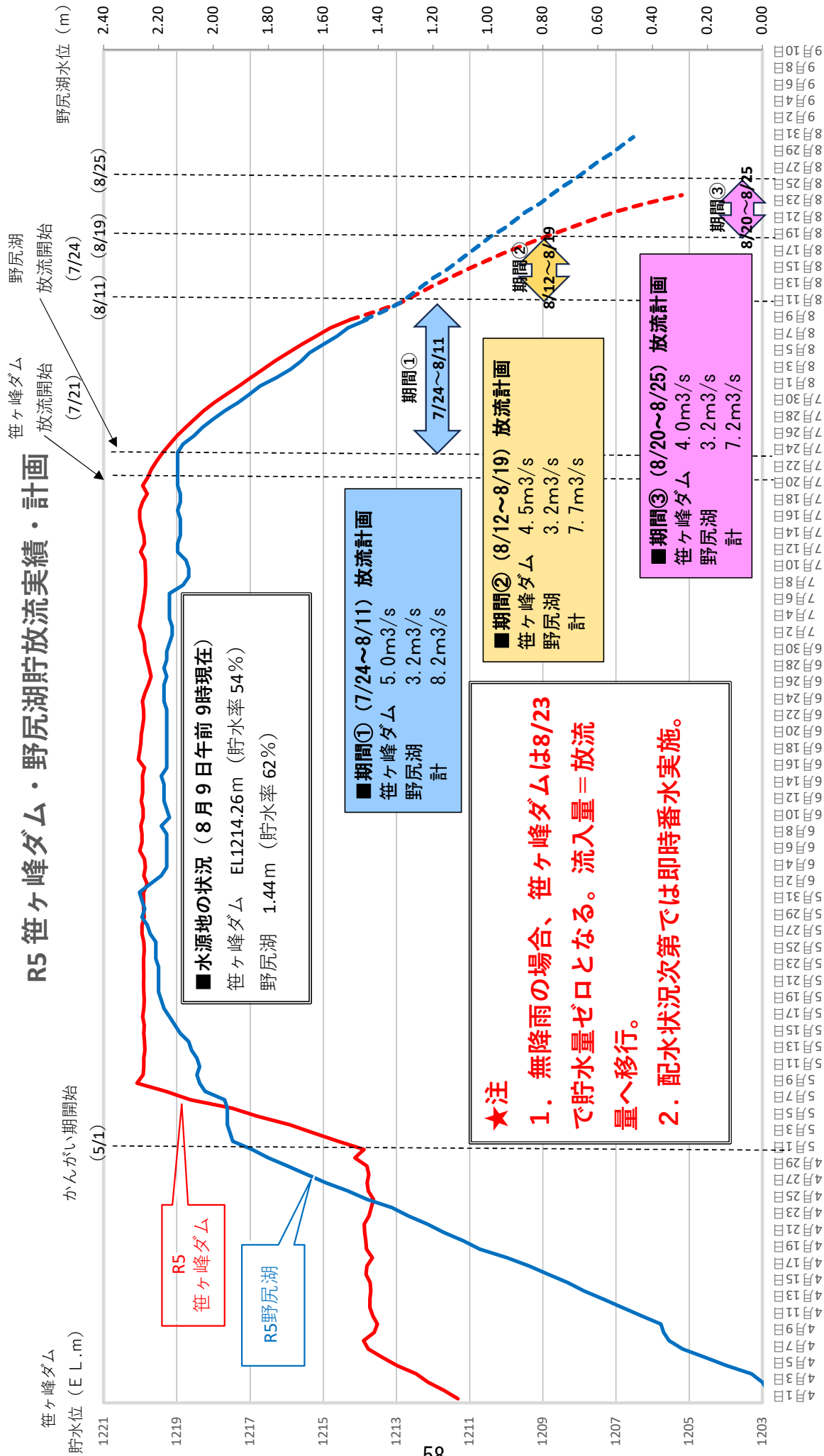


かけ流しの悪い例



給水不足で枯死寸前の水稻

R5 笹ヶ峰ダム・野尻湖貯放流実績・計画



農業用水情報 No. 4

発行：関川水系土地改良区
業務課

TEL：025-522-5723

発行日：令和5年9月15日

番水にご協力いただきありがとうございました。

7月下旬から9月上旬まで異常高温・渇水の中、関係組合員の皆様方より番水（輪番制）及び節水へのご理解・ご協力をいただきまして厚く御礼申し上げます。

通水・渇水対策の経過

1. 番水並びに通水対策

記録的少雪の影響で、上江・中江用水の供給源となる笹ヶ峰ダム・野尻湖からのかんがい放流に不足を生じるおそれがあることから、当初、5月31日からの番水を計画しました。しかしながら、梅雨時期に適度な降水量があったことから、笹ヶ峰ダム及び野尻湖は満水を維持し、本格的なかんがい放流開始は7月21日からとなりました。その後、水稻の出穂期と異常高温が重なり一気に用水需要が高まったことにより、下流域において用水不足が発生したため、上江用水では7月29日から、中江用水では8月14日から番水（上下流の輪番制）を開始しました。

2. 渇水対策（笹ヶ峰ダム・野尻湖からの放流、補給ポンプ設置）

幹線用水路の通水量確保のため、両水源池から計画的にかんがい放流を実施したものの、異常高温と無降雨状態が例年になく長期間続いたことにより、利水可能貯水量をほぼ使い切る状況となりました。【裏面の実績グラフ参照】

対策として、8月25日から上江用水に1箇所、中江用水に6箇所の計7箇所において、排水路に水中ポンプを設置し、用水路への補給を実施しました。

ごく一部において、用水不足による枯れ被害が見られたものの、大部分のほ場においてはかんがい用水により被害を免れたものと存じます。



補給ポンプ設置状況（中江幹線用水路）

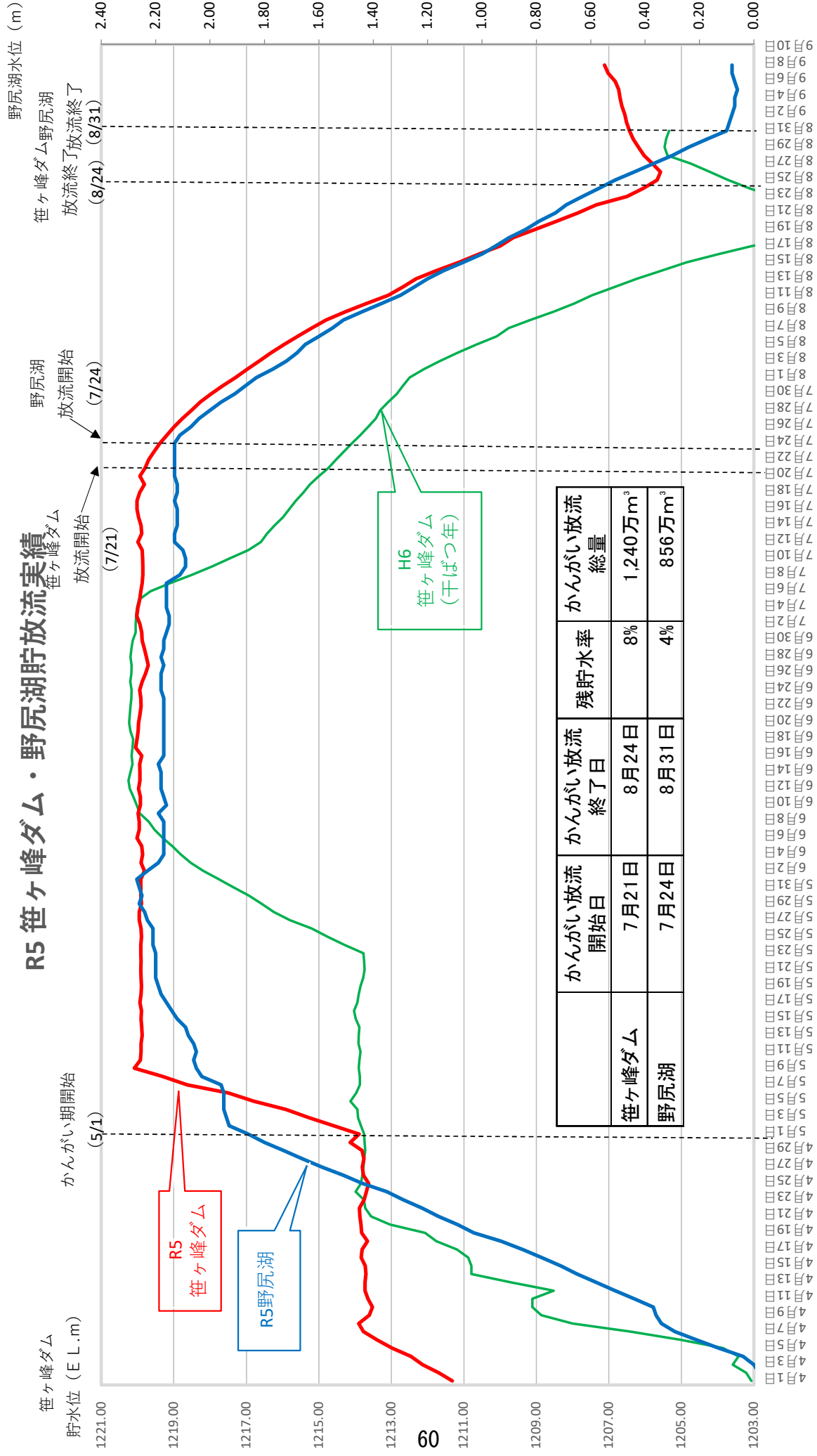


水位低下により棧橋が使用不能となった野尻湖



堆砂状況があらわになった笹ヶ峰ダム（真川上流より望む）

R5 笹ヶ峰ダム・野尻湖貯放流実績



報道状況

上江用水と中江用水

5月31日から「番水」

系区
川水
土地改良区

かんがい用水確保

笹ヶ峰ダム
周辺少雪で

関川水系土地改良区は、笹ヶ峰ダム（妙高市）周辺の雪が例年よ

少なく、夏場のかんがい用水が不足する恐れがあるとして、5月31

日から幹線用水路の上江用水と中江用水をそれぞれ上流・下流に分

け、2日置きに取水し合う「番水」を行うことを決めた。

15日時点

の笹ヶ峰ダムの周辺の積雪量は、平年の約4割



笹ヶ峰ダム周辺はすでにアスファルトなどが露出している（16日午前11時すぎ、関川水系土地改良区ライブカメラより）

に当たる118センチ。周辺の雪解け水は同ダムにおける主要な水源で、少雪は水不足に直結する。

同土地改良区は、渇水期に入る7月下旬以降までのかんがい用水を確保しておく必要があるとして、番水を決めた。また水稻栽培に支障を来さないよう、上越農業普及指導センターに対し水不足に関する技術対策を農業者に指導・徹底するよう要請した。

夏の渇水備え 31日から番水 上越の上江、中江用水路

上越市の関川水系土地

改良区は、少雪による夏の
用水不足を避けるため、
31日から上江、中江の両用
水路を上流域と下流域に分
け、交互に取水する「番水」
を実施する。番水は少雪だ
った2020年以来3年ぶ
り。

水源となる笹ヶ峰ダムの
管理委託を受ける関川地区
土地改良区連合の調べによ
ると、ダム周辺の積雪量は
平年の約40%にとどまっ
た。今年は雪解けが早く、
6、7月のダムへの流量低
下が懸念されている。

関川土改は番水をする
ことで7月下旬までの笹
ヶ峰ダムの貯水量を維持
し、夏の渇水期に備える。
番水は上江、中江両用水路
の上流と下流で、2日ごと
に取水する。松橋聡事務局
長は「空梅雨になっても番
水で渇水期を乗り越えられ
る。協力してほしい」と話
した。

上江用水で取水制限

関川水系
土地改良区
2日置き50%

ダム
峰
ケ
貯
水量
低下

関川水系土地改良区は、7月21日の梅雨明け以降降水がほとんどなく、笹ヶ峰ダム（妙高市）の貯水量が低下したことなどを受け、同29日から幹線用水路の上江用水で、2日置きに50%の取水制限を行っている。

取水制限は上流域のゲートを半分閉めるこ

とで行う。制限により下流域まで水を十分に届ける狙いがある。4日は清里区などで午後5時にゲートを閉める作業が行われた。

まま放流を続け、降雨がなかった場合、25日に貯水量はゼロになる見通し。台風によるフェーン現象などが発生した場合、水田に水を供給できず水稲の大幅な品質低下を招く恐れがある。

同日午後6時時点の笹ヶ峰ダム周辺の貯水量は61.8万トで、貯水率は67.1%。この

同土地改良区は「フェーン現象は警戒している。25日以前でもフェーンの場合は最大限努力する」としている。



取水制限のためゲートを半分閉める作業（清里区で）

県内カラカラ 河川渇水も 妙高 5年ぶり節水呼びかけ



水位が低下し、河床があらわになっている矢代川＝7日、妙高市

県、きょう情報連絡会

本県が梅雨明けしたとみられるとの発表があった先月21日以降、県内各地では晴天が続いた。新潟地方気象台によると、6日までの総降水量は新潟市、上越市（高田）で0ミ、長岡市で12・5ミ、7日時点で渇水状態の河川も出てきた。

妙高市は7日までに、水源の矢代川の水量が減っているとして、旧新井市域約9千戸を対象に水道の節水の呼びかけを始めた。旧新井市域に節水を呼びかけるのは2018年以來5年ぶり。

7日の矢代川中流域は、水たまりや深さ数センチの流れがある程度。節水期間は、雨が降り川の水量が戻るまでという。上下水道局の松木博文局長は「風呂の湯の再利用など、節水に努めてほしい」と協力を求めている。同市（関山）では先月21日から6日までの降水量が計13・5ミだった。

県によると、7日に早出川ダム（五泉市）で貯水率が一時40%を切り、広神ダム（魚沼市）も50%を下回った。農業用の笹ヶ峰ダム（妙高市）は6日に62・8%で今年の8割だった。県は8日に庁内の県渇水情報連絡会を開く。国交省北陸地方整備局も9日に関係機関を集めた信濃川渇水調整協議会を開き、情報交換する。いずれも県内が渇水に見舞われた18年以來、5年ぶりの開催。

7日の矢代川中流域は、水たまりや深さ数センチの流れ

消雪用井戸を開放

上越市 農地渇水で対策本部



上越市は10日、梅雨明け以降まとまった降雨がなく、水稻を中心に農作物被害が発生していることから、空周一農林水産部長を本部長とする農地渇水対策本部を設置した。

11日から9月10日まで、農業用水の代替として、頸城区花ヶ崎の消雪用井戸を予約制で開放することなどを決めた。

水稻のほか園芸作物や養魚池で魚を育てている農業者に対し、ポンプ車の借り上げや

農業者への支援策を説明する空農林水産部長

ホースの購入に要した経費、ポンプの燃料費について2分の1を上限に補助する。対象期間は4日から9月10日まで。家畜の暑熱対策として、送風・散水設備の導入や電気料金についても、2分の1を上限に補助する。対象期間は1日から31日まで。

同本部によると同市は、降雨量5ミリ未満の

日が7月20日から10日まで22日間続いている。水稻の被害は、水源を雨水に依存している天水田が多い。水田のひび割れが深くなると水をためる機能がなくなり、来年以降の作付けにも支障を来す。空本部長は「実態の調査も進める」と述べた。

消雪井戸の利用申し込み、制度に関する問い合わせは午前8時30分から午後5時15分までに市農政課（電話025・5200・5748）へ。

23日には貯水量ゼロ

水田に 不可欠 妙高市の 笹ヶ峰ダム



焼山監視カメラ

笹ヶ峰ダム（23日、関川水系土地改良区提供）

から、十分に水が行き届かないことについて問い合わせが寄せられているという。

同土地改良区は水の有効活用策として上流の水門を50%閉め、下流まで水を行き届かせるなどの対応を行ってきたが、雨が降らず水不足解消には至らず。22日から2日置きに上江、中江の両用水路で、上流部の主要なゲートを完全に閉めたり開けたりする措置を取ることを決めた。

同土地改良区は23日までの間、笹ヶ峰ダムと水利権を持つ野尻湖（長野県信濃町）の水

を合わせて毎秒7・7㍓供給する計画。24日以降は笹ヶ峰ダムの有効貯水量がゼロになるため、供給できるのは現行比60%の毎秒4・6㍓程度になる見通しだとしている。

流域の水田は作期分散や経営規模の大型化で今後も水が必要になる水田が多く、降雨がなければ水不足が水稻に深刻な影響を与える恐れがある。野口和広理事長は「水が必要なお水田に満遍なく行き渡らせたい。関係者には協力をお願いしたい」と話した。

上越、妙高両市の水田を潤す笹ヶ峰ダム（妙高市）の有効貯水量がゼロに近づいている。関川水系土地改良区によると、雨が降らずに推移した場合、23日にゼロになる見通し。関係者は「記録的な少雨で渇水となった1994年並みだ」と危機感を強めている。笹ヶ峰ダムは、水稻が穂を出し水が必要となる7月下旬から放流を開始し、上江用水をはじめ幹線用水路を通じて水田に水を供給してきた。しかし7月21日の梅雨明け以降ほとんど降雨がなく、流入する水が全くないため、有効貯水量は減少の一途をたどる。関川水系土地改良区には特に用水下流部の受益者

渇水農地614ヘク被害

県集計 稲と大豆が大半、拡大も

県は23日、渇水によって農作物が枯れるなどの被害が出た農地の面積が、22日時点で614ヘクと明らかにした。稲と大豆が大半を占める。猛暑は続いており、今後被害の把握が進むにつれて面積は増加する可能性がある。深刻化する農業被害を受け、県は23日、市町村への財政支援などの応急対策を正式に発表した。

被害農地の面積は県が市町村からの報告をまとめた。614ヘクは本県の耕地面積（2022年）の0.4%に当たる。

稲は上中越の山沿いや佐渡の天水田を中心に16市町の225ヘクで枯れるなどの被害が出た。大豆は306ヘクで生育不良による不作が見込まれる。枝豆やネギな

どの園芸品目は83ヘクが被害を受けた。暑さによって死んだとみられる家畜は、牛18頭、鶏4568羽に上っている。

花角英世知事は23日の定例記者会見で「今後情報が入ってくる（被害面積が）広がる可能性がある。心配されている稲の高温障害も含めた被害は現段階では見通しが見えない」と話した。

県の応急対策では、ポンプで水をくみ上げるなどして農作物や錦鯉への被害を軽減した場合、市町村が農業者への支援に要した経費の半分を補助する。土地改良区（土改）が行う対策も半額を援助する。かん水する面積が、稲なら作付面積の30%か30%以上の農業者

らが対象になる。電気代や燃料費は対象外。

ひび割れた農地の復旧費用も支援する。亀裂の深さが50センチ以上で水田の機能が損なわれた場合に、市町村へ復旧費の35%を補助する。

対象期間は梅雨明けした7月21日までさかのぼり、当面の間続ける。

今回の渇水で農業者や土改は、排水路などから水をポンプでくみ上げたり、ポリタンクやホースで運んだりして乾いた農地を潤している。県内の市町村は、必要な器具の購入・借り上げ費用などの補助を始めている。県の対策は、市町村や土改による取り組みを後押しする狙いがある。

県は今後被害の規模を見

極めた上で予算額を決め、県議会9月定例会に補正予算案を提出する見通し。

県は渇水が起きた2018年にも、同様の支援を実施している。

関連記事 29面 || 晩生への影響心配

新潟県 渇水被害で応急対策

かん水用機器導入に補助

新潟県は23日、農作物などへの渇水被害応急対策支援をすると発表した。今後も高温・

少雨が続くと思込まれるため、地域の対策に助成をする。

「かん水用機械等整備対策事業」では、市町村が取り組むかん水用機器の導入に補助をする。ポンプ車やポンプの借り上げの他、新

たに購入するポンプやホース、ポリタンクの購入費用を助成する。

「干ばつ応急対応」は市町村や土地改良区、JAが取り組む水路の造成など、用水確保のための工事に必要な経費を補助する。揚水機や付属部品の購入・借り入れの経費も対象となる。

今後の対応として「干ばつ災害復旧対策」も設定した。7月

21日以降で連続20日以上雨が降らず、通常の手直しでは復旧ができないと認められた農地が対象。亀裂の深さなどが規定以上の場合で、市町村や土地改良区の復旧対策を支援する。70

浄水場の井戸水放流

前例なし農業用水に 干ばつで 上越市



上越市は干ばつによる水稲被害の軽減を図るため、24日から9月10日まで浄水場の井戸水を農業用水路に放流する。

渇水対策として農業用水に放流を始めた法花寺浄水場。農業用水への放流は過去に例がないという(24日午後1時50分ごろ)

上越市は農地渇水・高温対策の緊急支援として行っている、用水確保のための消費用
里区菅原(JAえちご上越清里ライスセンター近く)を追加する。事前予約制で、時間
間は9月10日まで。予約は市農政課(電025・520・5748)へ。

農業用給水場所を追加 上越市

井戸の開放場所を追加する。11日から運用している頸城区花ヶ崎に加え、24日から清
は午前9時から正午まで、午後1時から同4時まで。井戸の開閉は市担当者が行う。期間を9月11日まで延長した。

市は渇水のためポンプの借り上げ・購入や燃料費の補助について、当初22日までと

三和区の法花寺浄水場から井戸水を「川浦用水路」に放流すること、水路の流量を増やし農業用水に充てる。上越市が浄水場の水を農業用水に充てるのは、前例がないという。
川浦用水路は幹線用水路の上江用水から分派した水を利用している。関川水系土地改良区によると、笹ヶ峰ダムの渇水により、通常より少ない水を川浦用水部まで行き渡らせる必要があるため、「浄水場からの放流は上江用水から川浦用水への流入量を抑制できるため」効果があるという。
放流による上水道への影響について、市水道局は「柿崎、正善寺、城山など浄水場で充足しており、影響はない」としている。



今年15日目の猛暑日となった新潟市中央区■24日

年間猛暑日19地点で最多

県内28観測地点

最高気温が35度以上の猛暑日になった年間日数が、県内28観測地点のうち19地点で観測史上最多となったことが24日、新潟日報社の調べで分かった。表参照。今夏は高気圧に覆われたり、台風の影響でフェーン現象が発生したりするなどして気温が高くなる日が多く、この先も平年よりかなり高くなる日が続く見込みだ。

最高気温は7地点で更新

新潟地方気象台によると、今年の猛暑日の日数は24日時点で新潟市秋葉区(新津)が県内最多の計27日(過去最多24日)となり、長岡市(長岡)が計24日(同14日)、三条市が計21日(同10日)、上越市(高田)が計21日(同17日)と続いた。長岡市(寺泊)ではこれまで、1999年と2010年に記録した計8日が最多だったが、今年は大きく上回る計20日に上っている。

例年と比べると、新潟市中央区の猛暑日は21年が計4日、22年は計2日だったが、今年はずいに計15日を記録。阿賀町(津川)は21年が計4日、22年は計1日だったが、今年計18日を数えた。県内の広い範囲で異例の猛暑が続いている。今年最高気温も上昇し

県内極端な少雨

新潟中央区、津川 平年比0%

本県で梅雨明け後に雨が少ない状況が続く、今後1週間程度も少雨が解消する見込みが小さいとして、新潟地方気象台は24日、少雨に関する気象情報を発表し、梅雨明けしたとみられる7月21日から8月23日までの降水量は新潟市中央区で0.0ミ(平年比0%)、佐渡市(相川)で2.0ミ、

県内の主要な観測地点の降水量 (7月21日~8月23日)

観測地点	降水量 (ミリ)	平年値 (ミリ)	平年比 (%)
新潟市中央区	0.0	181.1	0
阿賀町(津川)	1.0	239.3	0
佐渡市(相川)	2.0	147.5	1
糸魚川市	3.5	198.4	2
上越市(高田)	4.5	176.5	3
柏崎市	4.5	164.9	3
十日町市	11.0	193.1	6
上越市(安塚)	11.0	179.0	6
長岡市	13.5	173.0	8
妙高市(関山)	15.5	147.1	11
胎内市(中条)	23.5	194.4	12
村上市	27.0	183.6	15
佐渡市(弾崎)	25.0	163.8	15
魚沼市(小出)	35.5	199.6	18
三条市	43.0	186.0	23
佐渡市(羽茂)	47.0	154.6	30
湯沢町	165.5	213.2	78

(同1%)、上越市(高田)で4.5ミ(同3%)。比較的年との差が少ない湯沢町でも165.5ミ(同78%)だった。新潟市中央

ている。全28観測地点のうち7地点で観測史上最高を更新し、新潟市東区(松浜)で39.7度、長岡市(長岡)で39.4度、糸魚川市では39.3度を記録するなど計

観測地点	日数	更新日数
新潟市秋葉区(新津)	27	+3
長岡市(長岡)	24	+10
三条市	21	+11
上越市(高田)	21	+4
長岡市(寺泊)	20	+12
阿賀町(津川)	18	+4
新潟市西蒲区(巻)	16	+11
村上市	15	+4
新潟市中央区	15	+1
新潟市東区(松浜)	13	+7
佐渡市(羽茂)	12	+5
上越市(安塚)	12	+4
魚沼市(守門)	11	+3
粟島浦村	9	+7
佐渡市(両津)	9	+6
佐渡市(相川)	8	+3
十日町市	8	+4
湯沢町	5	+2
妙高市(関山)	1	+0

※気象庁のデータを基に作成。妙高市(関山)は過去最多タイ24日時点

長岡38.9度 全国最高

県内は24日も高気圧に覆われて気温が上がり、長岡市(長岡)で全国最高の38.9度を観測するなど28観測地点のうち21地点で35度以上の猛暑日となった。粟島浦村(粟島)では36.5度、妙高市(関山)では35.1度を観測し、それぞれ今年の最高気温を更新した。

また、新潟地方気象台は24日、本県を含む北陸地方に、高温に関する早期天候情報を発表した。向こう2週間も厳しい暑さとなる見込みで、予想最高気温は長岡市(長岡)と阿賀町(津

が流れ込みやすい影響で、平年より気温がかなり高くなる見込み。

新潟日報社のためには24日午後5時現在、熱中症とみられる症状で少なくとも33人が搬送された。3週間以上の入院を必要とする重症は新潟市と長岡市で各2人、加茂市で172短期入院が必要な中等症は3人だった。

日本農業新聞

出来秋へ募る不安

渇水

少雨による渇水や高温が続き、水稲などの生育に影響が出ている。新潟県や福島県では、必要な水が確保できず、収穫を断念する圃場（ほじょう）や、品質への影響が懸念される圃場がある。高温も続いており、幅広い地域で水稲の生育が前進化。胴割粒などを防ぐため、県などは収穫の前倒しを呼びかける。

▼12面に関連記事

高温

高温で水稲の生育が前進する中、刈り遅れは、胴割れ粒の発生といった品質低下につながる。

滋賀県では極早生の「ハナエチゼン」や早生の「みずかがみ」で、既に収穫が前倒しで進む。8月中旬時点の収穫進度は22年は2

「経験ない」収穫断念も



実が入らず、穂が立ったままの稲を見詰める丸山さん（新潟県上越市で）

品質確保へ作業前倒し

新潟県内では広い範囲で雨がかなり少ない状況が続く。上越市の高田観測所では、8月の降水量は23日までにわずか4・5ミリ。平年の184・5ミリの1日分にも満たない。

同市牧区で水田9畝を管理する丸山進さん（74）は、山にある棚田計2畝に「ポンプで水を入れても行き渡らない」。収穫は難しいと見込み、うなだれる。「5年前も渇水だったが、2回の夕立で賄えた。今回は全く降らない」。残る7畝は川沿いなどにあり、限

新潟 続く少雨、野菜にも影響

・6%だったが、今年5%。中生品種の収穫も3、4日ほど早まる可能性があるとする。県は「刈り遅れないよう、乾燥機やコンバインを早めに掃除し、備えてほしい」という。

青森県は17日に「収穫時期は大幅に早まる見込み」との技術情報を臨時で発出。高温で出穂が早まっており、収穫開始適期も主力の「まっしぐら」などで

新潟県は23日に出した生産現場向けの緊急情報で、早生の「こしいぶき」は可能な限り早く収穫するよう呼びかけた。フェーン現象による高温・乾燥が続

一方、岡山県は、例年は10月ごろ収穫する中生「ヒノヒカリ」について「収穫時期が早まるかは現時点では不明。今後の気温の推移次第だ」とする。

新潟県内では広い範囲で雨がかなり少ない状況が続く。上越市の高田観測所では、8月の降水量は23日までにわずか4・5ミリ。平年の184・5ミリの1日分にも満たない。

同市牧区で水田9畝を管理する丸山進さん（74）は、山にある棚田計2畝に「ポンプで水を入れても行き渡らない」。収穫は難しいと見込み、うなだれる。「5年前も渇水だったが、2回の夕立で賄えた。今回は全く降らない」。残る7畝は川沿いなどにあり、限

中では渇水が続く。同県の農事組合法人代表、太田庄治さん（77）も「こんなに農地に水がないのは、初めての経験だ」という。

県のまとめでは22日時点で、17万畝の農地のうち、水稲や大豆、エダマメ、ネギの614

日中が暑過ぎて7月や8月をしても根腐れの危険がある」という。夕方止める農業用水を夜間も使うなどで対応。「実入りが良くない株や病気の発生が懸念される」と気をむ。

籾で作物の枯死などの被害があり収穫できないと見込む。農業排水の用水への反復利用が45000畝など、通常とは異なる水管理を延べ3万1000畝で取り組んでいるという。水稲以外にも影響が広がる。流通関係者によると、県内ではエダマメの出荷量が大幅に減少。エダマメを扱うJA新潟かがやきしろね南アグリセンター（新潟市）は「水が足りないこともあるが、

猛暑が一転
夕方に雷雨

上越地域

県内は26日も高気圧に覆われて晴れ、上越市高田で35.3度など、各地で猛暑日となった。一方で、午後からは大気の状態が不安定となり、夕方から激しい雷雨など夕々にまとまった雨が降った。

同日午後5時40分までの1時間に、上越市高田で23.0㍉の降雨を観測。同所で1日に20㍉近い雨を観測したのは7月19日以来。また、東北電力ネットワークによると、同5時15分時点で上越市で約500戸、妙高市で約2800戸、糸魚川市で約40戸が停電。いずれも雷が原因とみられる。

環境省と気象庁は27日も熱中症の危険性が極めて高い気象状況になるとして、県内に熱中症警戒アラートを発令した。予測される暑さ指数は上越市大湊33、同市高田32、糸魚川市糸魚川31、同市能生と上越市安塚30など。予想最高気温は高田で34度。

水稲24ヘクタールで枯死

高温 被害総面積70ヘクタールに

上越市

上越市農地渇水対策本部（本部長・空周一農林水産部長）は6日開かれた市議会農政建設常任委員会で、8月25日時点における、渇水・高温による水稲被害の状況をまとめ報告した。

被害は市内中山間地のほか、かんがいが行き届かなかった平野部にも及び、茶色く枯れ上がり「枯死」と判定されたのが24ヘクタール。高温・低湿で葉が巻き上がり、または巻き始めたものを合わせると70ヘクタールに及んだ。枯死被害は牧区で最

も大きく、次いで旧上越市の南部。両者の合計は全体の3分の2を占める。枯死した水稲は収穫が不能となり、収入に結び付かない。高温障害を受けた水稲は米粒が割れたり白濁するなどして流通に適さないコメが多く発生し、収入減につながる。

長期間雨が降らず、高温にさらされた影響で、水田の表面に大きな亀裂が入り、来年の作付け前に重機などによる復旧作業が必要となる水田もある。

被害は枝豆をはじめ野菜や家畜にも及んだ。県上越農業普及指導センターによる8月30日時点のまとめによると、枝豆は10ヘクタール、ブロッコリーは3ヘクタールで、それぞれ収量・品質が低下した。また家畜は牛舎・鶏舎の暑さで乳用牛3頭、肉用

牛1頭、採卵のため飼育されていたニワトリ約1300羽が死んだ。直近の大規模な渇水

県は6日、今夏の高湿・渇水に伴う農作物などの最新の被害状況をまとめ発表した。それによると被害が報告、確認されているのは26市町村に上って

被害は2018年8月に発生。水稲は中山間地を中心に約77ヘクタールで被害が起きた。家畜は暑さでニワトリ約1万5000羽などが死んだ。

同本部は水田に水をくみ上げるポンプの費用助成や畜舎の暑熱対策に支援を行っている。空農林水産部長は「農地復旧支援に関する調査も開始した。農作物の品質確保に向け

た取り組みを、関係機関と連携して進めていく」と述べた。

このほか、畜産被害は乳牛、肉牛、豚、採卵鶏、ブロイラーを

県内被害を公表

県が最新情報 水稲被害は707ヘクタール

いる。主なものでは、水稲被害（枯死・枯れあがりなど）面積は707ヘクタールに達した。大豆などの生育不良などの被害は336ヘクタール。園芸作物では枝豆が17ヘクタール、

のへい死被害は6156頭。水産被害ではシキゴイのへい死が12尾、養鯉池のひび割れ2ヘクタール。